

伊佐市コミュニティ協議会

伊佐市役所地域振興課 元コミュニティ活力推進係 新原 洋太郎

伊佐市コミュニティ協議会 概要

- ▶ 2011年から市町村合併に伴い伊佐市校区コミュニティ協議会が発足。
- ▶ 小学校校区で区分けしており、現在15のコミュニティ協議会がある
- ▶ 事務局職員を各コミュニティで採用し、専用の職員を配置。
- ▶ 予算規模としては運営事業、育成事業合わせて5,000万規模の事業。
- ▶ 他にも伊佐市校区コミュニティ協議会ワンステップ事業として補助金を設立

校区の行事はもとより、様々な団体と協力してお年寄りから子供たちまで楽しめる体験活動を行ったり、お助け隊を編成して地域課題の解決などに取り組むなどして地域活性に役立っております。

伊佐市コミュニティ協議会 活動



山野校区コミュニティ協議会

下之馬場自治会の「あくまき」

この時期に毎年11個の窯を使って
450個ほどの「あくまき」を作ります。
会長が自治会長をしています。

伊佐市コミュニティ協議会 活動



菱刈校区コミュニティ協議会

毎月一回の体験活動

ニジマスのつかみ取りと塩焼き

学校のプールを使っておこないます。
伊佐市のコミュニティ協議会の中では
定番の活動です。

伊佐市コミュニティ協議会 活動



伊佐市コミュニティ協議会

年に一回コミュニティ協議会対抗
ドラゴンボートレース開催

国体の会場にもなった菱刈力ヌー競技場にて開催。小学生の部 成人男子
成人女子の部とレースが行われます。

伊佐市コミュニティ協議会 課題

- 誕生から14年経過しており、事業がマンネリ化している。

※毎年同じ事業 参加する人は同じなど

- 少子高齢化が著しく若い世代との連携ができていない。

※世代交代ができていない

- 時代が変わり情報社会に対応できていない。

※情報発信などがSNS主流になっている。連絡手段もアプリが主流。

- どこも似たような事業を行っており地域に特色がない。

※地域間の差がないので交流が生まれにくい

この　何が問題なのか？

伊佐市コミュニティ協議会 課題？

- ▶ 誕生から14年経過しており、事業がマンネリ化している。

様々な事業や行事を行い、これ以上何をしろというのか？

- ▶ 少子高齢化が著しく若い世代との連携ができていない。

※それはどの業界どの分野でも同じことじゃないのか？

- ▶ 時代が変わり情報社会に対応できていない。

※今まで地域を作ってきた高齢者を見捨てるのか？

- ▶ どこも似たような事業を行っており地域に特色がない。

※伊佐市内の地域間での交流が必要なのか？

何が課題なのかわからない

持続可能な地域コミュニティ構築支援事業

(概要)

- ▶ **伊佐市校区コミュニティでも活発な3校区を中心としてワークショップ開催**
今まで5回開催（各校区1回づつ。全体を2回）
- ▶ **全校区を対象とした講演会の実施**
四日市大学名誉教授の岩崎恭典先生とオフィスピュアたもつゆかりさん
オフィスピュアの高崎恵さんは講演会とワークショップを開催。
- ▶ **非常に多くの課題を整理することができました。**

持続可能な地域コミュニティ構築支援事業

(内容)

- ▶ ワークショップを通じた課題の共通

意外と自分が思っている、問題点や良いところは共通認識ではない。その為、課題解決や新しい企画実行まで共感者がいないため、なかなか進まない。

- ▶ これからの事業の見直し

まずはできることから。見直せる部分は見直していこう。

- ▶ 行政がやることを決めない

あくまでもコミュニティが主体となって問題解決に取り組む。行政は予算的なサポートや、主体的なコミュニティビジネスになるように環境整備を行っていく。

伊佐市コミュニティ協議会の取り組み

- 誕生から14年経過しており、事業がマンネリ化している。

※全部の事業を見直すのではなく、イベントでまずは新しい試みを行う。地域のトレンドを作っていく。

- 少子高齢化が著しく若い世代との連携ができていない。

※若い世代も参加しやすいイベントづくり。

- 時代が変わり情報社会に対応できていない。

※自分たちが情報発信をするのではなく、来てくれた人にしてもらう。行政とも連携する。

- どこも似たような事業を行っており地域に特色がない。

※上記のことを取り組むことで、各校区に特色を産みだす。

伊佐市コミュニティ協議会の新たな問題

新たな取り組みの問題点

コミュニティ側

誰がリーダーになるのか？予算は？　若手は時間も取れない。

行政側

コミュニティ主体　予算はない。行政主体で行うほど
時間はとれない。

永遠の平行線

伊佐市コミュニティ協議会の新たな問題

新たな取り組みの解決方法

NPO法人と地域おこし協力隊を活用する。

企画、提案から当日の実働まで、行政の手の届かないところをサポート。実現までのスピードを高める。補助金なども提案

コミュニティの活動を観光として取り組む。

ミニマムツーリズムとして十分機能する伊佐のコミュニティ活動を
コミュニティだけが取り組むのではなく観光分野として観光係も
一緒に取り組む。

伊佐市コミュニティ協議会の取り組み

山野校区コミュニティ協議会

あくまき = 焚火 + 伝統料理 + キャンプ場



奥十曾渓谷アクティビティ事業



伊佐市コミュニティ協議会の取り組み

平出水校区コミュニティ



夏祭り スカイランタン事業



伊佐市コミュニティ協議会の取り組み

菱刈校区コミュニティ協議会

コミュニティスクールの強化

学校のPTAは保護者会へ移行。専門部の段階的な廃止。

子供会などを自治会単位ではなくコミュニティでおこなう。

市P連の脱退、もしくは解散。県P連脱退
(意味のない会議を減らす。学校の負担減)



伊佐市コミュニティ協議会の取り組み

牛尾校区コミュニティ協議会

たかくまソロライダース野営場

